

ヤナギタデ

流れのほとりや湿ったところに生えるタデで、夏の終わり頃から秋にかけて白い小さな花が咲きます。

タデの仲間は、似た種類が多く見分けにくいですが、ヤナギタデは葉をかむと辛いので間違えることはありません。この辛みを利用して、古くから栽培され、いくつかの品種が出来ています。お刺身に添えられる紫色の双葉はその一種で、ムラサキタデと呼ばれています。かつては田んぼの水路などにありましたが、現在では富士山こどもの国などでまれに見つかるだけになってしまいました。



ヤナギタデを確認したメッシュ

